

第2回、3回 Web オープンキャンパス(7/19、8/10) 学科相談コーナー Q&A

生活学科 情報・経営専攻

Q1 電子機器(タブレットなど)の購入は必要ですか？

A1 本専攻では授業で使用するため、スマートフォンやタブレットではなく、ノート型パソコン(令和元年12月文部科学省「GIGA スクール構想」で想定されている機器相当以上のもの)を入学者全員に必携とします。入学時までに入学者各人でご用意ください。

★入学が決定した人へは、機能面からどのような機器が良いかについて連絡します。

Q2 パソコンが苦手でも大丈夫ですか？

A2 1年次の前期にビジネス文書演習や表計算演習などの授業でワードやエクセルの基本を学び、そこで身につけた技術や能力を情報系・ビジネス系の両分野の専門科目に徐々に活かしていきます。このように複数の授業でサポートしますので、基本的には大丈夫です。

Q3 男女比を教えてください。

A3 他学科や他専攻では女性の比率がかなり高くなっていますが、本専攻では専門分野の性質が影響し、男女比はおおよそ半々です(学科パンフレット参照)。

Q4 編入する人はいますか？

A4 近年、編入実績はありません。編入を希望する場合は個別に対応します。

Q5 コミュニケーションが苦手です。コンピュータのみ勉強していてもよいでしょうか？

A5 コンピュータは仕事をする際のツールとして重要ですが、それだけを学ばばよいというわけではありません。社会に出ると仕事に限らずさまざまな場面でコミュニケーション能力が必要となります。本専攻では、社会人基礎力をベースに専門性と実践力を兼ね備えた、地域社会で活躍できる人材の育成を目指しているため、本専攻の学びの体系は、「社会人基礎力」をベースに「情報活用能力」「ビジネス実務能力」を築いていくことを目標として構成されています。

Q6 プロジェクト演習について具体的に教えてください。

A6 プロジェクト演習は1年次後期に開講され、より具体的な課題解決に取り組みます。この科目は情報系とビジネス系に分かれて、定員約15人程度で実施されます。プロジェクト演習(情報)では、業務の効率的スケジュールリングや情報管理といった企業が抱える課題を素材として、情報処理技術に関する知識・スキルを活用しながら、チームによる課題解決型学習を行います。プロジェクト演習(ビジネス)では、倉吉市の商店街が抱える課題を素材に、文献調査やフィールドワークをふまえた、チームによる課題解決型学習を行います。また最後に、外部の専門家の方(企業経営者や行政関係者)の前で発表会を開きます。

Q7 簿記を勉強したことがありませんが、大丈夫でしょうか？

A7 本専攻では、初心者を対象としたもの(基礎簿記)から資格取得のための応用編(資格簿記 A、簿記 I・II)まで学べるようになっていきます。基礎簿記では初心者でも内容に対する理解が可能であり、簿記の基礎をしっかりと身につけることができます。また簿記を勉強する過程で、もし興味が出てくるようであればステップアップも可能です。

Q8 経営ではどのようなことを学びますか？

A8 企業は利潤(利益)最大化を目標として生産活動と販売活動を行っています。それらの過程ではさまざまな意思決定を行っています。例えば、製品をつくるために原材料を仕入れますが、どこから仕入れるかについては、安いところや知り合いのところなどたくさんの選択肢があります。その中から企業は自分たちにとって最適な決定(意思決定)します。このように、経営では利潤(利益)最大化という目標を達成するために、企業がどのような意思決定をするかについて学びます。

Q9 高校のうちにやっておいたほうがよいことってなんですか？

A9 大学の情報・経営で学ぶにあたって、情報分野に関しては数学、ビジネス分野では政治経済などの科目にしっかり取り組むことが重要です。そのほか、情報や政治や経済・経営にかかわるテレビのニュースや新聞など現実の事象についてアンテナを張り、授業などにおいてそれらを意識することも重要です。また、すべての学びには基礎学力が必要です。基礎学力とは、SPIに出題されている、小学・中学・高校で身につける基礎的な学力のことです。そこで、入学前に提示される SPI 問題集に取り組むことで自身の学力の把握に努め、弱点は克服しておくといよいでしょう。

Q10 先生の男女比は？

A10 男性は 4 名、女性は2名です。それぞれの割合は 66.7%、33.3%となっています。

Q11 カリキュラムの特徴について教えてください。

A11 まず、カリキュラムが学びの基礎から応用までを、順を追って学び修得できる順序で構成されています。また、基礎から応用までの特別演習科目を設けているため、問題発見や問題解決および表現能力を身につけることができることも特徴の一つです。さらに、カリキュラムが、情報分野とビジネス分野の専門知識と技能を学ぶことで習得した技能が資格取得に結びつく実践力を身につけられるように構成されていることも特徴となっています。

Q12 情報と簿記系の授業の割合はどのくらいですか？

A12 本専攻では、簿記の授業だけでなく、経済学や経営学、法律などをビジネス分野とし、情報分野と併せて1つの学びの体系を構成しています。情報分野とビジネス分野で言うと、授業の割合はおおよそ半々です。ただそれぞれの学問体系や内容によって必須科目の開講時期がズレており、個々人への負担の度合いが異なります。例えば、情報分野では、積み上げ式であり、これだけ知っておかないと次のステップへ進めないといったことが起こりうるため、情報処理総論、情報処理実務、ウェブデザイン A といった必須科目の開講が1年生前期に集中しています。ビジネス分野においても、経済学(基礎共通系科目)を学んだのち、経営学やビジネス実務概論といった必須科目を学習していきます。両分野に共通して1年生で基礎を身につけて、2年生でそれらを応用させ、より実践的な学習をしていきます。

Q13 グループワークが苦手ですが、どんな指導をされますか？

A13 初回の授業では自己紹介などアイスブレイクを行い、みんなの気持ちをほぐし話しやすい環境を作っていきます。その後、グループのメンバー全員に、グループワークごとに目標を提示し、リーダー、書記、タイムキーパーなど、みんなで役割分担を決めて、各担当を確実にこなすように促し、グループワークの目標を達成するように指導しています。

Q14 ゼミとはどのようなことをするのですか？

A14 特別研究は2年間の集大成であり、基本的には学生自身が研究したいテーマを考え出し、指導教員の指導の下でそのテーマに関するさまざまな資料から結論を導くというものです。例えば、自分の興味に応じて一から研究するという学生もいれば、1年次のプロジェクト演習(課題解決型学習に取り組む学習)の内容を広げて、それを研究として質的にレベルアップさせる学生もいます。このようにどの科目を深く研究するかは学生個人によります。1年次から2年次にかけて基礎から応用まで様々な学習をしていきます。その中で、自分はいったい何に興味を持っているか、あるいはどんなことを研究していくと就職後に有利と なっていくかなどを常に考え続けていくことが重要となります。